

今年度もあとわずか 新生活がまもなく始まります。

あと1週間で卒業式を迎えます。今年1年を振り返り、一人一人の4月からの成長と入学当初からの成長を感じるこの頃です。

◇こんな姿を見るようになりました。

- ・目標とする進路を目指し、実現した生徒
- ・希望する進路にあきらめずに挑戦する生徒
- ・自分の行きたい事業所を確認し、夏休みから取り組んだ生徒
- ・不得意なことにも逃げずがんばる力を付けた生徒
- ・体調管理に気を付けて生活した生徒
- ・自分のやりたいことを見つけた生徒
- ・話すのは苦手だけれど自分の伝え方を身に付けた生徒
- ・学校に登校できる日が増えた生徒
- ・笑顔いっぱい学校生活を送っている生徒 等々



生徒自身は一生懸命に自分の課題にチャレンジをしていました。卒業後の社会生活に向けて、実り多き1年だったと思います。できたことをしっかりと確認しながら、4月に向けて準備をし、今年1年の取組に自信をもって、新生活に向かって欲しいと思います。

また保護者の皆様、実習の準備や支援等ありがとうございました。実際に現場に出向き、ご挨拶をしていただきながら、現場の様子を見ていただいた方もいらっしゃいました。当校での教育活動では、保護者の協力が欠かせません。ご多用の中、本当にありがとうございました。今後ともよろしくお願い致します。

新年度準備として、新2・3年生には、実習希望調査、生徒紹介書をお渡しします。(3/11 配付) 進路を考える機会としていただければと思います。

新2年生は、得意なこと・不得意なこと・がんばればできそうなこと、かなり難しいことが理解できるよう、色々なことにチャレンジし、経験を基に自分を理解してもらえればと思います。

新3年生は、今までの経験を基に得意なことを生かした進路選択を具体的に考えてもらえればと思います。

生徒紹介書には今年度1年の成長した姿も含め、本人の様子を記載して下さい。我々にとっては当たり前の様子でも、初めて出会う事業所の方にとっては大切な情報になります。

ご家族の思いもあるかと思いますが、ご家族みなでご相談下さい。

4月に向けて・・・、確認をお願いします！！

◎卒業生・保護者の皆様、新生活の準備は大丈夫ですか。

- ・ 4月からは何時に起きて、何時に出勤しますか？
- ・ 何時に帰宅しますか？
- ・ 帰宅したら、何をしていますか？
- ・ 4月からの生活に向けた、春休みの生活の仕方は考えていますか？
- ・ 契約の手続きはお済みですか？
- ・ 個別の移行支援計画は、進路先や支援者にお渡しになりましたか？
- ・ 分からないこと、心配なことはありませんか？



卒業式を終えた後、改めて気持ちと用具の準備をしていかなければいけません。卒業式まで1週間。分からないことなどあれば、ぜひご連絡ください。

◎進級する生徒・保護者の皆様、新年度に向けての見通しは大丈夫ですか。



- ・ 進級した学年で取り組むことは何ですか？
- ・ 次の実習ではどんな事業所の経験をしたい（させたい）ですか？
- ・ 自分（お子さん）の得意なこと、不得意なことは分かっていますか？
- ・ 社会生活の中で、支援が無くても言動・表現できることは何ですか？
- ・ 卒業後の生活の場、通勤の仕方、活動地域を考えていますか？
- ・ どんな進路、生活が自分（お子さん）に合っているか考えていますか？
- ・ 進路実現に向けて、何をしたらいいか考えていますか？
- ・ 進路実現に向けて、準備や練習はしていますか？

進路は、本人・保護者・教員・支援者・巡り合わせの関わりの中で決まっていきます。本人・保護者の役割はとても重要です。見通しをもって、新年度の取組をお願いします。



過去の困った事例から、未来へ向かって

～進路担当を始めてから今までこんなことがありました～

進路担当を初めて、10年になろうとしています。その中で、「〇〇しておけば・・・」と思う、出来事をお伝えしたいと思います。お子さんの様子、ご家族の様子、生活の想定をしながら、お読みいただければと思います。

○事業所に行っているはずが…(卒業生の事例 同じような事例が数件あり)

支援センターから「〇〇さん最近休んだり、早引きが多いようで」との連絡がありました。事業所に自分で申し出て、休んだり欠勤したりしているとのことでした。「こんな話があるんですけど…」と保護者に話すと「毎朝同じように出ていますし、仕事はがんばってきたと言ってるんですが…」との返答をいただきました。しかし実際には、本人が欠勤・早退の連絡をして、仕事に行っていないことが分かりました。家庭状況を確認すると、そういうケースのほとんどが、本人より先に保護者が出勤し、保護者が後に帰宅するという状況でした。また本人のことを信頼しているあまり、言うことをそのまま受け止めていたという状況でした。

本人に理由を聞いてみると、「困っていることを言い出せない」「働くのが大変になって…」ということで出勤しにくくなったようです。また、本人と会話がなく、保護者が行動を全く確認していないケースもありました。

その後、支援が入りましたが、その結果離職となった方と持ち直し定着している方と、はっきり分かれました。



<持ち直したケースでは…>

- ・保護者が勤務に対する心構えや約束ごとをしっかりと言い聞かせることができて、本人が実行できた。
- ・保護者が指導後の経過を確認し、本人がしっかりとできていることを確認できた。
※ケースによっては、保護者が仕事前に事業所まで送った。
- ・事業所と保護者の情報交換が進んだ。(勤務態度、勤務状況)
- ・本人が困っていることを相談できるようになった。

<離職したケースでは…>

- ・本人に働く意欲が無くなってしまった。
- ・保護者が「見きれないからどうしようもない」と諦めてしまった。
- ・保護者が、本人の特徴に合った言い聞かせる方法をもっていない(分かっていない)
- ・本人と保護者が困っていないため、相談をしない。「ダメなら、いいや」と考え、変えようと思わない。

※「進路先でも指導する内容では？」と思う方もいるかと思いますが、「休ませてください」という訴えからの事例です。障がいのある方が事情を訴えてのお休みであると、事業所は断りにくいのが実情です。

<こんなことができれば防げるのでは…>

- ・「このような事例は、あるかもしれない。原因は違うけども、起こるかも」と想定し、対応を考えておくこと。
⇒ 今回の事例のような理由ではなく、障がい特性による興味やこだわりで通勤途中で足が止まり、出勤しない、居場所が分からないという卒業生もいました。

- ・保護者が、本人の特徴を捉え、“ちょっとした変化に気付く”、“言い聞かせることができる”ということ。
⇒ それらがしっかりできないために、本人がやりたいようにやり、家族が対応できない。事業所でも他者への影響が強く困った存在になってしまう。そのようなことから“家で生活できない”、“事業所にも行けない”、“周囲の人が関わりたがらない”という卒業生もいました。



- ・本人が“困ったら話す”ということができること。保護者など聞いた人が相談に乗ってあげられる、適切な対応を教えてあげられること。
⇒ 分かった時には問題事例が大きくなりすぎ、誰も修復ができず、事業所にいられなくなった卒業生もいました。

社会で生活する上で、色々な出来事があります。そこから自分に当てはまることは何だろう。もしそうなったらどうしよう。何をしておくか、対応できるだろう。考えておくこと、準備をしておくことは大切だと思います。今後もこのような事例を紹介できればと思います。将来を考えるきっかけにしていただければ幸いです。



新潟県立小出特別支援学校 川西分校 進路教室のご案内



今年度、多くの方から進路教室に、ご参加いただきありがとうございます。

平成28年度も進路教室を計画しています。5月からスタートの予定です。4月のPTA総会后に日程が決定します。日程が決まりましたら、改めて皆様にご案内致します。多くの皆様の参加をお待ちしています。



不明な点があれば、いつでもお問い合わせください。

新潟県立小出特別支援学校川西分校

TEL 025-768-3325

FAX 025-768-3371

担当：進路指導部 細井哲明 佐藤正高

